

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所では、利用者が家族と共に暮らしている様な生活環境を作り「つかず・はなれず・差し伸べる手で・信頼をわかちあう」をモットーとし、地域に溶け込めるような共同生活を維持していく…を理念として掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の廊下や玄関等、目につきやすい場所に掲示し、対応や処遇面で迷った時に理念に基づいた行動が適切に取られているかを日々確認している。	○ 定期的に職員ミーティングを持ち、その場で唱和するとか、新入職員が入った際のオリエンテーション等で、必ず理念に触れる時間を持つようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は事業所内に数箇所掲示している。理念をパンフレットに提示している。事業所利用時に理念を利用者や家族に説明している。	○ ホーム便りが滞っている為、今後再開させ、そこに必ず理念を提示するようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進会議等で町内会や民生委員との連携を深め老人クラブや子ども会の情報を得、交流の場を持つように努めている。年に数回、交流バーベキュー大会等を開催し、地域からの参加も呼びかけている。地域の小学校の社会見学等に役立っている。散歩等で屋外に出る際には、率先して大きな声で挨拶をし、ホームの理解と地域での共存を目指している。地域の行事・催し等には出来るだけ参加するようにしている。	○ 地域の方々との定期的な交流を持ち、子ども会や老人クラブ共催で行事等に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価を通して、事業所として至らぬ点や改善目標等を明確に出来たので、その結果を事業所内に掲示し、誰でも目に触れることが出来る様にし、意識の啓発を図っている。	○ 全職員に対する周知の取り組みとして、経過と結果を発表する場を持ち、より良いケアに向けた意見を集約し、次年度につなげていきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、昨年度後半より利用者代表にも加わっていただき、出来る限り簡易な言葉で解りやすく進行している。 又、一つの話題が終了した時点で、必ず理解の確認と質疑の時間を設けている。	○ 広い視野でより良いサービス向上の為に、同地域の他事業所開催の運営会議への参加を希望している。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは随時連絡を取り、実情と課題に対しての指導を受けている。 さらに役場内にもパンフレットを置かせていただき理解を深めていくようにしている。	○ 行政（役場）主催の勉強会や他GHとの交流会等を希望している。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度に関しては、研修の機会がある度に複数の職員が参加できるような体制を整備し、研修終了後には事業所内での伝達研修を開催し、必要な知識と技術の習得に努めている。	○ 一般職員の研修への参加機会を増やしたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法設立の意義を知り、GH職員としての心構えを説明している。 又、事業所内での対応マニュアルをも作成しており、それに基づいて防止に努めている。	○ 同上

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約改定時には、利用者・家族に事業所の理念やケアの方針等について説明をし、同意を得ている。 長期間における入院や退去条件等を納得のいくまで説明をし、安心してもらっている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員の誰に対してでも日常生活の中で、随時意見や不満・苦情等を話せる雰囲気を提供し、そこから得た意見は必ず苦情相談窓口（管理者）に届くような体制が確立されている。そして必要に応じて文書を公開する等をし、今後の運営に活かしている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	最低でも月に1回は近況報告（暮らしぶり・健康状態等）をしており、緊急性が高いと判断される時は随時連絡を取って報告をしている。 金銭管理に関しては各自のお小遣い帳を準備し、領収書を添付し定期的に報告をしている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等は設けていないが、いつでも気軽に立ち寄れるように夜勤帯以外は事業所を開放・開錠しており、入ってすぐの所に目安箱を設置している。 苦情があった際は、必ず対応策を検討し、その結果を家族に戻すようにしている。	○ 家族会の設立在望ましい。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対しては業務の中で気付いた点や改善する為の意見を随時発言できるような雰囲気を提供し、出された意見に対しその場で是非を判断せずに運営会議等で図るようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤換算以外の常勤職員を配置し、急な欠勤等に対応できる体制をとっている。その他に非常勤職員を配置し、食事作り等を補ってもらい、その間に常勤職員がケアに専念出来る体制をも取っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	<p>年間の研修計画作成 個人の経験や力量に応じた研修への平均的な受講</p>
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>同村他法人の同業者との交流</p>
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった際は直接面談を行い、希望やニーズを把握するように努めている。又、利用希望者や家族との信頼関係を築く事に尽力している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者、並びに家族のニーズを把握するように努め、対応できる事であれば柔軟に実行している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の視点に立ったサービスの提供に努め、利用者と家族双方の意向に沿うように、十分な話し合いを持っている。 職員が共通の認識を持ち、各人がそれぞれに信頼関係を築く事に努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴・病歴等を理解した上で、感情を大切にケアを心がけている。 又、利用者には残存能力を活用し、得意分野で力を発揮出来る様に支援し、職員と共同で生活している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	状態急変時以外でも家族との連絡を密にしており、ケアをする際の注意点等をアドバイスしている。 又、生活の様子を説明し、安心して共に支える関係を作るように努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の家族に対する思いを代弁し、いつでも気軽に立ち寄れる環境を整備している。 又、疎遠になっている場合には、必要に応じての関係修復に向けた取り組みを行っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	聞き取り情報で得た生活歴や本人・家族との関わりの中で、知人や馴染みの場所等を把握する様に努めている。 希望に応じて、随時外出の支援等も行っている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間で、仲の良い悪い等の人間関係を把握し、特定の利用者が孤立しないように配慮している。 さらに、より良い人間関係が構築出来る様に援助を行っている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、何かあったらいつでも来所して頂き、相談や支援に応じる旨を話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者の思いや希望・意向を把握するように努めている。 訴えが少ない利用者に向けては、本人本位で検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やライフスタイル・個性・価値観等を聞き取り調査の時点で確認し、関わりの中で得た情報を加味し、より深く把握する様に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの一日の暮らし方や心身状態、有する力等の現状・変化に対して、早急に築くように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、その人がその人らしく生活していく事が出来る様に、極力本人・家族の思いや意見を聞き、さらに関係者や利用者を良く知る人からの意見をも参考にしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを実施し、6ヶ月毎に再アセスメントを行い、介護計画の見直し・作成を行っている。 又、状態が変化した時や新たな課題が発生した際は、随時再アセスメントを行ってから介護計画の見直し・作成を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりに対してケース記録を作成し、日中にあった事実と職員の気付き等を記載し、夜勤帯においては時間毎に分類し、何があったのかとその時の対応を詳細に記載している。	○	記録には介護計画に沿って実践されたか、実践した結果がどうなったのか等を記載する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族のその時々々の要望や状況に応じ、移送や外出支援等のサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や自治会長・行政・警察・消防等の各機関と協力しながら支援を行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所以外のケアマネジャーとも連携を図り、いつでも必要な支援が行なえるように、随時必要な情報を提供してもらっている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働し、事業所内では対応困難な事例等に対処出来る様にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後、看護職員の採用が望ましいと考える。
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを最小限にする為に、家族等の協力が得られる様に働きかけており、プライバシーに配慮した上で、移行先への情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の訴えを、なるべく否定したり拒否はしておらず、個人情報等に関しては利用者や訪問者の目に付く所には置いていない。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が十分に意思表示できない場合でも、表情や態度から希望を把握するように努めている。又、複数の選択肢を準備・提示する等を行い、自己決定を尊重している。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを大切にし、訴えを最優先事項として捉える等、柔軟な支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理美容院等へは希望が無い為に連れて行っていないが、毎朝ブラッシングを促したり、必要に応じて介助を行っている。洋服の選択も、出来る人には選択して頂いている。髪が伸びた際は床屋さんに来所してもらい散髪をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には栄養面に配慮し、不得手な品物を把握した上で代替品を準備する等の支援を行っている。さらに、お絞りをセットする等、一緒に準備できる部分については実践している。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒は行事等があった際に少量は可能だが、喫煙は施設内では行えない。利用者の嗜好品に関しては、献立に取り入れたりオヤツ時に楽しめるように工夫している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しており、介助が必要な場合は日中声かけにてトイレ誘導や後始末の確認を行い、夜間はポータブルトイレや尿器を使用している。失禁時やオムツ交換時は、羞恥心とプライバシーに配慮しながら援助を行っている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望を取り入れ、曜日をずらして対応している。拒否された場合は声かけや対応、人を替える等の工夫をしている。入浴場面においては過介助にならぬように、自身で行える部分は自分で行ってもらい、羞恥心等にも十分な配慮を持って対応している。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの状況・体調に応じて、昼夜逆転傾向にならぬような配慮を持って、随時休息時間を設けている。夜間眠れない利用者に関しては、医師指示の下で眠剤服用等の調整を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望により、テレビ視聴はいつでも楽しめるように時間や規則を設定していない。訪問販売のパン屋さんが2週に一度来所されるのでそこでの買物も楽しまれている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの小遣い帳を準備し、利用随時にレシート・領収書を添付し記載している。そのほかに個人で管理・使用されている方もいる。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望された時や好天時には、外気浴や屋外散歩を行う等、ストレスの解消につなげている。又、家族にもその意向を伝達し、協力を得ている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回は、極力全入居者と職員全員で外出・遠出の計画を立てて実行している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話で、要望があれば利用者も電話子機を渡し会話をして頂いている。利用者からの電話依頼があれば、通話時にボタン入力等の介助を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中の訪問においては時間等の規定はなく、来訪者の時間や都合に配慮している。その際の談話される場所は、ホール及び居室を開放しており、自由に利用できる環境を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として行っていないが、本人・家族からの希望があれば転落防止用のベッド柵は使用する。他に胃瘻チューブの自己抜去や不潔行為が想定される場合に限り、代替行為がないと判断し、本人・家族の了解の下にミトン等の着用をする事もある。その為の説明文書は準備しており、必ず同意を得てから実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室には昼夜を通して施錠しておらず、出入りを制限していない。 玄関だけは防犯上の理由から、夜間（19時～6時）のみは施錠している。あらかじめ家族等からの連絡があれば、柔軟に対応している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は複数名の職員による見守りをしながら、必要随時の介助を行っており、夜間はキッチンからの目配り他、就寝以降は定時の巡回訪室と随時の緊急時対応を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品等に関しては、利用者・家族の了解を得た上で鍵のかかる目に付かない、手の届かない場所に保管している。	○	ナイフやはさみ等の管理は、その利用者の能力を勘案し、状況に応じて職員側で一時預かりとしている。使用時には必ず職員見守りの下で行ってもらうようにしている。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書は事務室ファイルにて個別に保管されており、いつでも閲覧が可能である。 事故や気付きがあった際は、毎日の申し送りを利用して全職員に周知が為されるようにしている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や救急救命の研修を受講した職員が講師となり、他職員に対して伝達研修を行っている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、火災を想定した避難訓練を実施しており、掲示してある避難経路の確認・問題点等を反省会の場であげている。 又、運営推進会議内にて、地域住民の応援体制等を議題としている。	○	災害発生時、地域の方に対しどのような手順で何をどのように依頼していくのか?を模索中で、地域住民との共同避難訓練をも実施したいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	入浴前にもバイタル測定を実施するようにしており、状況如何によっては医療受診につなげている。
71	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	病歴や内服等を全職員が把握しており、追加処方や変更があった際でも確認ができる様、個人ファイルに随時新たな情報を差し替えしている。
72	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	肺炎球菌による誤嚥性肺炎に対応している。
74	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者・職員共にインフルエンザの予防接種は毎年行っている。感染症に対するマニュアルがあり、うがいや手洗いを励行する等予防に努めている。グローブ・マスク・予防衣等は常時準備しており、使用している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの慣行・調理器具の除菌・消毒を行う等、衛生管理チェック表を準備し確認している。食材の残り物は必要に応じて冷凍保存をしたり、廃棄処分を徹底している。	○	職員の自発的訴え（発熱・咽頭痛）があった際は、調理から外すようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車椅子の利用者でも安全・簡易に出入りができる様にスロープを設置しており、玄関前の駐車場はアスファルト整備され、自由に屋外散歩が楽しめる。敷地内に看板を設置し、建物には施設名を記してある。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には、行事の写真や利用者の共同作品・季節を感じ取れる装飾品等を掲示しており、心地よく過ごせる工夫をしている。	○	各自の居室と共有空間は、毎日掃除を行っている。 利用者の居室には、壁に自身で作成した作品や好みの写真等を飾り、自分らしさの演出を支援している。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや椅子を常備し、利用者一人ひとりのくつろぐ場所が決まっており、談話しやすい環境を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	愛用している物や馴染みの物を使用してもら う様に家族へ働きかけている。 起居動作が安易に行えるように固定ベッ ドを準備しているが、必要に応じて介 護ベッドに変更したり、床に布団を敷 いて使用してもらっている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	臭いや空気よどみに関しては、入居者・訪 問者が不快と思わぬように、各居室と 共有空間共に換気を行っている。寒暖 の訴えが聞かれたら、随時温度調節は 行っている。冬場に空気が乾燥する時 は加湿器を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	安全安楽を最優先して考え、段差や障 害物を除去し車椅子利用の方でもス ムーズな移動ができる様に配慮して いる。居室からトイレ・ホール、玄 関に到るまで、壁周囲に手すりを配 置している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	利用者一人ひとりの持ち物には氏名を 記入し、居室入り口には各個人の表 札を準備している。トイレ等の共有 スペースには、大きくトイレと表示 し、利用の際には言葉での説明も付 け加えている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	庭にミニ菜園があり、そこで野菜を植 え、その成長と収穫を楽しんでいる。 玄関前にはプランターを準備し、利 用者の方と一緒にその生育と鑑賞を 楽しまれている。	○	菜園で収穫された野菜類は、献立に 使用したり交流バーベキュー大会 で使用している。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型という事を常に意識し、地域の中での交流や貢献できる事業所としてあり続けたい…と願っています。

利用者や家族に対しては、今まで以上の信頼を頂ける様に尽力しています。

いつでも気軽に遊びに来てもらえる様なアットホームな雰囲気を提供し、帰る際にも笑顔で安心して帰って頂ける様な支援を心がけています。